

あなたにも できる 応急手当

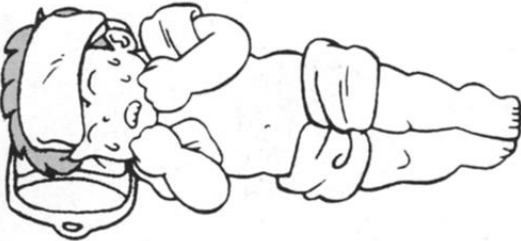
今回は、子どものひきつけについて覚えましょう。特に、子どもに多く発生する熱性けいれんの特徴、症状と応急手当についてお知らせします。

特徴

- (1)生後3カ月～5歳くらいの小児に多くみられる。
- (2)急に意識がなくなる。
- (3)眼がつりあがる。
- (4)手足がつっぱり、全身をけいれんさせる。
- (5)ほとんど2～3分以内でおさまる。

応急手当

- ①あわてて揺すったり、押さえつけたりしない。
- ②けいれんで転倒し、ケガをすることがあるので注意する。ケガをしたら、傷の程度をよく観察する。
- ③子どもを静かに横向きに寝かせる。吐いた物がのどにつまらないように注意する。
- ④呼吸しやすいように衣服をゆるめる。
- ⑤熱があれば、氷のうや濡れタオルで頭、首、脇の下を冷やす。



- ⑥けいれんがおさまっても、すぐに動かさない。
- ⑦けいれんが長く続いたり、繰り返す時は医師の診察を受ける。

119番は こうかけよう!

11月9日は119番の日です。火事、救急、その他の人命救助や災害のための緊急専用電話です。局番なしの119番にダイヤルをまわすと「火事ですか」「救急ですか」と問いかけてしますので次のことをあわてずにはっきり伝えてください。



- (1)火事か救急か、はっきり言ってください。
- (2)場所を正確に伝えてください。
(〇〇町〇〇番地の誰々です、あるいは〇〇町××交差点です)
- (3)何が燃えているか、けが人がいるかどうか言ってください。救急の場合は、どうしてけがをしたか、どんな状態で発病したか、係員の質問にはっきり答えてください。
- (4)あなたの名前と電話番号を係員がたずねますので、はっきり答えてください。
また、消防署では次のテレホンガイドを行っていますので、ご利用ください。

●在宅医の問い合わせ…67-2828

●火災の問い合わせ…69-6141

※119番での火事、病院の問い合わせをひかえ、テレホンガイドを利用してください。